

第4次国有林野事業流域管理推進アクションプログラム (阿武隈川流域)

1 流域の特色（国有林 92千ha、民有林 178千ha）

- ① 本流域は福島県の中央部に位置し、いわゆる中通り地方と呼ばれる地域の大半を占めている。

日光、磐梯朝日の国立公園、阿武隈高原中部、霊山、大川羽鳥の県立自然公園があり、自然探勝やハイキングなど森林を利用したレクリエーション、保健・休養の場として多くの人々に親しまれ、利用されている。

また、特に自然状態の良好な森林が保存され動植物の宝庫となっている、吾妻山周辺には森林生態系保護地域を設定している。
- ② 阿武隈山地を主体に林業生産活動が活発に行われ、福島、郡山、八溝地区及び近県地域の木材加工工場や消費地へ供給されていることから、流域産材の安定的な生産・供給体制の確立が必要である。

また、地域産材の需要拡大に向けた需要の掘り起こしに努める必要がある。
- ③ 地球環境問題や森林に対するニーズの多様化等、森林への期待と関心の高まりに応え、森林とのふれあいの場の提供や森林整備の体験活動を通じて、上下流が連携しながら森林の公益的機能の理解の深まりを図る必要がある。

2 流域内で優先的に取り組むべき課題

- ① 林業技術の普及・啓発、森林施業等の現地検討会の開催
- ② 民・国一体となった低コスト路網整備、低コスト作業の普及、啓発
- ③ 低コスト造林のためのコンテナ苗木のデータ収集及び関係者への普及
- ④ 民・国連携した効率的な森林施業を集約化及び路網の整備の推進
- ⑤ 森林の公益的機能についてのPR、森林環境教育等の実施
- ⑥ 下流住民に対する情報の提供

3 国有林野事業に対する流域内のニーズ・要望

- ① 木材需要拡大PRの現地研修の開催（木材の流通等、木造住宅等の見学会）
- ② 公共土木事業等への木材利用拡大のため現地検討会等の開催
- ③ コンテナ苗木実演会開催及び低コスト造林システムの検証
- ④ 森林施業等現地検討会の開催
- ⑤ 高性能林業機械使用の低コスト作業、低コスト路網の作設の普及、研修会の開催
- ⑥ 森林の公益的機能についてのPR
- ⑦ 生物多様性・森林環境教育の推進（森林教室、体験林業等の開催及び講師派遣等）
- ⑧ 上下流連携の強化（地域住民、ボランティア団体等が行う森林づくり、各種イベント等への協力、フィールド提供）

4 国有林野事業が率先して行う取組

① 計画的な木材供給の推進

ア) 目標

流域での間伐材の利用促進、川上、川下が連携し、需要者のニーズに対応するため、民・国が共同して素材の生産、供給体制を構築し、地元材の安定供給を推進する。

イ) 連携・協力機関

流域林業活性化センター、県農林事務所、森林組合等林業関係機関

ウ) 取組方向

- ・ 間伐材の需要拡大を目指し、木材（間伐材等）を使用した治山・林道の工事箇所を対象に、民・国共同の研修会を開催し、公共工事等への木材使用のさらなる促進を図る。
- ・ 将来の木造建築技術者の育成を目指している専門学校等を対象に、森林の造成、木材の伐採・搬出、製材加工、木造住宅の建設での一連の流通過程を現地で研修し、木材需要拡大に繋げていく。
- ・ 間伐材の需要拡大に係る資料等の提供、間伐材の需要拡大PRを図る。
- ・ システム販売による安定供給を図る。

② 森林施業の効率化・共通化等の取組

ア) 目標

低コスト・高効率な作業システムの整備・普及
民・国一体となった路網の整備及び森林施業の集約化
コンテナ苗木導入による低コスト造林システムの検証及び普及

イ) 連携・協力機関

流域林業活性化センター、県農林事務所、市町村、森林組合等林業関係機関

ウ) 取組方向

- ・ 間伐推進のため、低コスト作業道の作設の現場研修会の開催。作業道の開設等、国有林での技術を民有林に普及する。
- ・ 国有林の低コスト伐採・搬出技術を民有林に普及するため、列状間伐、高性能林業機械の実演などの国有林を利用した現地研修会の開催
- ・ コンテナ苗木植栽後の状況報告や新植箇所での植付等の検討会を開催
- ・ 民国連携し森林整備推進協定により効率的な森林整備に取り組む。

③ 林業技術の開発・普及・啓発、林業事業体の育成

ア) 目標

国有林を研修等のフィールドとして活用
各種研修、森林整備ボランティア等へのフィールド提供及び技術指導
緑の雇用担い手対策事業の研修や林業技術の研修等に必要なフィールドの提供に努める。

イ) 連携・協力機関

流域林業活性化センター、県農林事務所、森林組合等林業関係機関

ウ) 取組方向

- ・ 列状間伐、高性能林業機械の実演などの研修フィールドの提供、協力等
- ・ 国有林のフィールドを活用した森林観察会等の開催
- ・ 森林・林業の普及に係るイベント等への参加、協力等

④ 安全・安心への取組

ア) 目標

地域住民への森林保全事業の情報提供及び普及・啓発への取組

イ) 連携・協力機関

単独

ウ) 取組方向

公益的機能保全のための森林保全事業等を地域住民の参加を含めた現地見学会の開催及び治山技術の普及啓発（勉強会）を図る。

⑤ 生物多様性保全に配慮した取組の推進

ア) 目標

生物多様性保全のための勉強会（観察会）の開催

イ) 連携・協力機関

自然保護協会

ウ) 取組方向

生物多様性保全の理解を深めるため、吾妻山周辺森林生態系保護地域を活用した勉強会（観察会）を開催

⑥ 上下流の連携強化のための下流住民等に対する情報提供、林業体験活動等

ア) 目標

教育関係機関等と連携した林業体験、森林環境教育の推進、流域の自然環境の維持・保全

森林の公益的機能のPRを図り、森林・林業の普及に係るイベント等の開催、地域住民、市民等への森林・林業等の情報提供の推進

イ) 連携・協力機関

流域林業活性化センター、自然保護協会、マスコミ関係、森の案内人等

ウ) 取組方向

- ・ 地域住民、市民等への森林・林業等の情報提供
- ・ 森林・林業の普及に係るイベント等の開催
- ・ 教育機関と連携し、小学生等を対象に体験林業や森林教室等の開催・講師の派遣
- ・ 上下流域とが連携し、森林と里、川や海との連携の啓発活動や現地での植樹活動等への支援や専門家の派遣等
- ・ 森林のPR、紹介や森林の情報提供をしている団体への活動支援の実施

- ・ 地域での各種のイベント等において、森林の重要性、必要性等のPRを、連携しながら実施
- ・ 森林・林業への一般県民の理解を深めるための森林ツアーの開催（阿武隈川等の源流を散策し、森林の様々な働きを現地で体験するようなイベント）
- ・ 森林ボランティア活動を行っている団体等に対して、活動フィールドの提供や森林整備に必要な専門技術・知識に関する研修会の開催や協力の実施

流域名・流域番号	阿武隈川流域(33)	担当部署	福島森林管理署・白河支署
計画期間	平成22年4月1日～平成25年3月31日		